

カリキュラム再構築を軸にした学校組織の改善

－総合的な学習の時間（JOIN・STEP）の課題解決－

学籍番号 229122

氏名 堀口 健太郎

主指導教員 田村 知子

副指導教員 田中 満公子

1. 問題の所在と研究の目的

1.1 研究の背景

総合的な学習の時間（以下「総合」）は、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成する目的で、中学校では2002年に全面実施された。学習指導要領の改訂ごとに、「総合」の位置づけは大きくなり、近年では、思考力・判断力・表現力の育成の効果が認められ、各教科等における探究的な学習の基礎となっている。しかし、「総合」の教育内容や指導方法は、各学校へ委ねられているため、学校現場では、試行錯誤しながらの運用が現在も続けられている。

近年、「学校はブラックな職場」という印象が広まり、問題視されるようになってきた。学校に対する各家庭や地域からの期待が高まる一方で、子どものおかれている状況や家庭の問題も複雑化・困難化していることが、学校の負担をさらに増やしている。最近では、教員志望の学生が減少し、教員の勤務環境の改善や、カリキュラムマネジメントによって、より効率的に教育活動等の質を高めていく必要がある。

1.2 実習校の現状と課題

実習校は、19名の教員と各学年3クラス合計220名ほどの生徒が在籍している中学校である。国立大学の附属中学校であり、教育研究、教育実習、地域のモデル校を目指す等の特徴を持っている。校務分掌を掛け持ちも多く、教員一人が担う業務の範囲は広い。現在は行事や取り組みの精選と意識の変革を図ろうとしているが、多忙な状況に変わりはない。

また、実習校で勤務する教員は、ほとんどが大阪府、大阪市、堺市の教育委員会からの人事交流である。かつては10年以上勤務する教員もたくさんいたが、現在では原則6年間までが年限となっており、入れ替わりが激しい。そのため、実習校独自の継続的なプロジェクトや伝統的な行事や取り組みが、継承されにくいという組織的な課題が存在している。

1.3 研究の目的

実習校の「総合」（名称「JOIN」「STEP」）は、30年以上に渡ってカリキュラムの大幅な見直しがされておらず、教員からは「しんどい」との声も聞こえる。

本研究の目的は、JOIN・STEPに内在する課題を整理・分析した後に、カリキュラムマネジメントの視点で組織的に解決することである。JOIN・STEPの改善策を実践し、その成果を検証する。

2. 実践

2.1 基本学校実習での取り組み

実践1年目は、まず、実習校のJOIN・STEPの歴史について、文献や取材によって明らかにした。開発に当たって多くの工夫がなされており、その価値を再認識することができた。

次に、指導を行う教員にインタビューを行った。「指導法の研修が無い」「学校全体の取り組みになっていない」「改善を推進する組織や責任者がいない」という意見があったが、「活動内容・指導方法」「指導における組織」の2種類に課題を分類して分析が進んだ。

7月には、管理職に許可をもらい、“総合的な学習の時間コーディネーター”を役職として設置し、自ら就任した。これにより、他学年のJOIN・STEPに参加して実態を調べたり、意見の交流と調整を行ったりできるようになった。

また、同じ大学附属中学校の「総合」について取材を行い、実習校との比較を行った。「自由研究」を行うB中学校は、長い歴史の中で、カリキュラムマネジメントを行い、指導方法も大きな変更を行っていた。非常に参考になり、JOIN・STEP改善の励みになった。

次に、カリキュラムマネジメント・モデル（田村2022他）を活用して分析し、「組織構造」と「学校文化」の相関関係の中に、実習校の強みや課題を見いだした。

最後に年度末に、校内研修会を開き、全教員からJOIN・STEPの課題と改善策について意見交換を行った。多くの教員が参加し、すぐに取り組み可能な改善策がたくさん出て、実習校の教員全体がJOIN・STEPの改善に前向きであることも判明した。

2.2 発展課題実習での取り組み

実践2年目では、前年度の校内研修会を活用して、「総合的な学習の時間担当」を校内分掌に位置付けた。報告者は敢えてその役職に就かず、20代の教員に任せた。当人は不安も多かったと述べたが、12月のJOIN発表会まで、全学年のJOIN・STEPを中心的な立場で取り仕切った。この担当をサポートするために“チームJOIN”を結成した。各学年主任、研究主任、教務主任、総合的な学習の時間担当によって構成されたチームは、動きが身軽で、いつでもすぐに集合して、情報交換や活動に向けて動き出せるチームであり、改善の推進に貢献した。主な改善点は次のとおりである。

「振り返りシート」の改善は、活動の進捗状況を全教員が共有できるようになった。「JOINミーティング」は活動前に2・3年生の教員が集合して、当日の活動内容や課題を共有し、目的意識を統一して活動に臨んだ。年度当初に実施した「ミニJOIN」の実施は、2・3年生が縦割り班をつくり、一緒にJOINのテーマを設定する過程をシミュレーション、そちらの学年の生徒にも効果があった。「他校・他校種との交流」では、高等学校のWWLの成果発表会に参加、また公立中学校のグループがJOIN発表会に参加した。年間通じて多くの実践が行うことができた。

3. 考察

チームJOINの教員を中心に再びインタビューを行った。JOINに対する「しんどさ」は完全には解消できていなかったが、チームが機能して様々な改善が行えた事に充実感を感じている教員が多かった。実際に次の年度に向けてチームJOINは、さらに改善する予定ができていく。カリキュラムマネジメント・モデルによる分析を再度行ったところ、「組織構造」は課題が減少していた。次はもっと全体を巻き込んだ改善をしてみたい。